

大阪・関西万博三重県ブース（仮称）出展基本計画【概要版】

出展の目的

三重県では、2023年にG7三重・伊勢志摩交通大臣会合が開催され、その後、大阪・関西万博、リニア中央新幹線東京名古屋間開通と大きなイベントが続き、さらに、次期遷宮など、三重県にとってチャンスが広がることから、大阪・関西万博の好機を着実に生かし、三重県への来訪につなげることを目的としています。

出展参加のテーマ

日本のこころの原点

～美し国みえへとつづく時を超えた物語～

三重県では、古くから多様な人々が暮らし、自然や歴史・文化を大切にしながら、知恵と工夫で新しいものを生み出し、発展してきました。「こころの原点」とも言えるこの物語を、三重県の豊かな自然や食など「美し国みえ」の魅力とともに、エンタテインメント型の空間演出で体感・体験いただきます。

成果目標

来場者数35万人

※関西パビリオン運営計画により見直す可能性があります。
※令和5年度の設計業務において新たな成果目標を検討します。

運営計画

関西パビリオンにおける基本的な運営（案内・予約管理など）は関西広域連合が担いますが、展示の説明や機器の運用は府県が担います。三重県ブースのテーマである「美し国」を体現できるようにおもてなしの心で、来場者に満足いただけるよう、関西広域連合と連携して運営を行います。

催事計画

三重県ブースの展示とも連携して三重県の魅力を発信します。

○関西パビリオン催事スペース
市町や団体等に参加していただき、来場者が三重県のことをもっと知りたいと思えるような催事を開催します。

○万博会場内催事スペース
オール三重での観光や食、祭りなどをテーマとした催事を開催します。

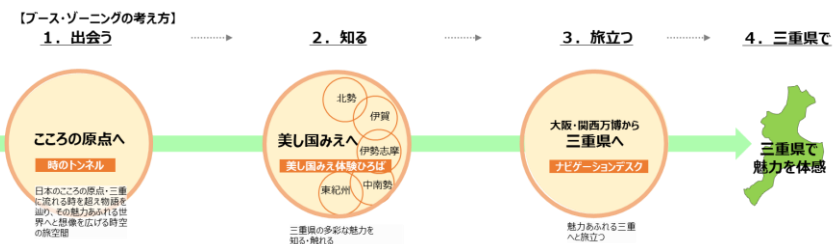


万博会場の催事スペース
提供：2025年日本国際博覧会協会

展示構成

面積 160㎡（予定）

三重県が世界に誇るオンリーワンの魅力と出会い、三重県の多様な魅力を知り、三重県へ旅立つという3つのゾーンで展開します。



①【出会う】時のトンネル



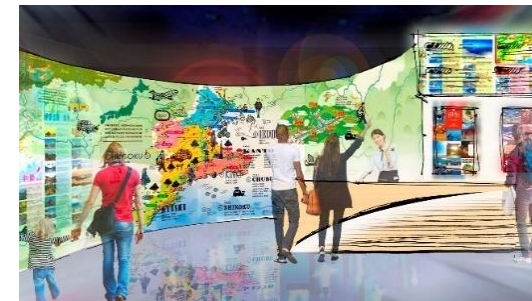
万博会場に居ながら「伊勢神宮」や「熊野古道伊勢路」から広がる三重県の千年を超える歴史物語を体感できる幻想的なトンネルを展開

②【知る】美し国みえ体験ひろば



県内5つのエリア別の観光紹介とともに、「三重県ならではの体験コンテンツ」を発信
県内市町、団体等と連携した「オール三重」で魅力発信

③【旅立つ】ナビゲーションデスク



コンシェルジュを配置し、来場者の多様なニーズにお応えするとともに、三重県への来訪のきっかけとなる取組を実施

観光・プロモーションの方向性

国内外の注目が高い大阪・関西万博において、会期前・会期中・会期後の各段階に応じたプロモーションを展開し、万博の好機を捉えた三重県への誘客・県産品の販路拡大を図るとともに、将来の三重県訪問のきっかけづくりを行います。

概算事業費

※資材や人件費等の高騰により見直す可能性があります。

○関西広域連合負担金

建築費・運営費・WEBパビリオン：約2億円

外構・内装・関西展示等：関西広域連合で調整中
関西パビリオンの建築・運営等の費用で、展示面積に応じた負担割となります。

○三重県ブース展示費用 約4.6億円

展示製作・工事、運営費、解体費用等が主な費用です。
令和5年度の設計業務により決定します。

○イベント・その他事業費

万博会場等での催事やその他万博に関連した誘客・県産品販路拡大等の取組について検討します。

その他

全体スケジュール

令和5年3月 第3回大阪・関西万博関連事業推進本部会議

令和5年度 展示設計

令和6年度 展示製作・工事、リハーサル

令和7年4月～10月 大阪・関西万博開催

推進体制

大阪・関西万博関連事業推進本部を設置し、県民、市町、団体、事業者と連携して、オール三重で取り組みます。

関西パビリオン

参加府県：滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県



関西パビリオンのイメージ 提供：関西広域連合